

# SPACE KOSHIEIN

宇宙甲子園



# CONTENTS

## / 宇宙甲子園とは？

概要／実施の目的／開催メリット／応援メッセージ

## / 大会の開催について

## / 参加者の声

過去に参加した学生・保護者・スタッフの声



# 宇宙甲子園とは？

高校生が模擬衛星やロケットの打ち上げにチャレンジし、  
宇宙への実践的な学びを経験する“宇宙の甲子園”です。

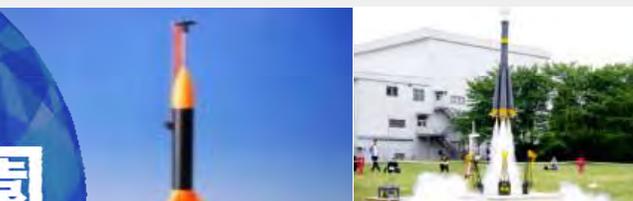
## 01 缶サット甲子園

クールな空き缶サイズの  
模擬衛星を飛ばして競う



## 02 ロケット甲子園 ※

卵を載せたロケットの  
打ち上げ高度・滞空時間を競う



## 03 気球甲子園

宇宙の入口成層圏にみんなで  
チャレンジ



## 04 天測甲子園 ※

天文・地文の謎を自作装置で  
みんなと解き明かす



宇宙甲子園  
SPACE KOSHIEIN

※ロケット甲子園・天測甲子園は中学生も含む。



# 宇宙への実践を通じて、 フロンティアに挑める 人材を育てる



宇宙甲子園では、大自然へのチャレンジを通じて未知への探求・挑戦を行います。

一人一人ではなくチームでフロンティアに挑戦し、試行錯誤を繰り返す機会を提供します。仲間と共に学び、また先輩達の技術を自ら手を動かして追体験しながら、自分達自身の知識・能力・技術を理解して、未知なる物に挑戦する力量を自ら学ぶ機会です。

私たちは参加を希望する日本中の中高生が宇宙甲子園に参加できる環境を整えるために、全国規模のネットワークを構築し、各地方での実施場所の確保・支援団体の構築を目指しています。

## 宇宙甲子園 事務局長 秋山演亮

和歌山大学 協働教育センター 教授  
千葉工業大学 惑星探査研究センター 主席研究員  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局 宇宙政策委員会 専門委員



## 大会開催がもたらす意義



### 高校生たちにとって

- ✓ 宇宙への実践的な挑戦ができる
- ✓ 活動の中でチームワークを学べる



### 開催地域にとって

- ✓ 地元の理系人材が育成できる
- ✓ イベントによる地域活性が見込める



### 宇宙業界にとって

- ✓ 宇宙へ興味を持つ人口が増える
- ✓ 国際競争力がアップする



### 教育業界にとって

- ✓ 学校では学べない「実践的な教育」を本大会で経験させることができる

宇宙甲子園は、生徒の皆さんが宇宙に関わる技術で全国の仲間と切磋琢磨する場です。歴代の参加生徒の皆さんが、真摯に取り組んでこられた姿に心打たれ、こうした真剣勝負ができる場があることの大切さを実感しております。宇宙甲子園を目指すことにより、技術だけでなく、課題を解決するためのミッション設定、チームワークやプロジェクトマネジメントなど幅広い経験を積むことができます。ここで経験を積み、現場力を鍛えた生徒さんたちは、きっと宇宙内外の様々な分野を切り拓いていってくれることでしょう。本活動をご支援くださる関係機関・スポンサーの皆様、熱心にご指導下さる学校の先生方、ボランティアの皆様にご心より御礼申し上げます。



山崎直子

### 山崎直子さんプロフィール：

2010年スペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し、国際宇宙ステーション組立補給ミッション STS-131に従事した。2011年に宇宙航空研究開発機構(JAXA)退職後、内閣府宇宙政策委員会委員、一般社団法人スペースポートジャパン代表理事、日本ロケット協会理事・「宙女」委員長、宙ツーリズム推進協議会理事、日本宇宙少年団理事長などを務める。

A group of people, many wearing white shirts, are gathered outdoors on a dirt field. They are clapping their hands, suggesting a celebratory or supportive atmosphere. In the background, there are blue tents and a clear blue sky with scattered white clouds. The overall scene appears to be an outdoor event or competition.

# 大会の開催について

## 甲子園の4分野



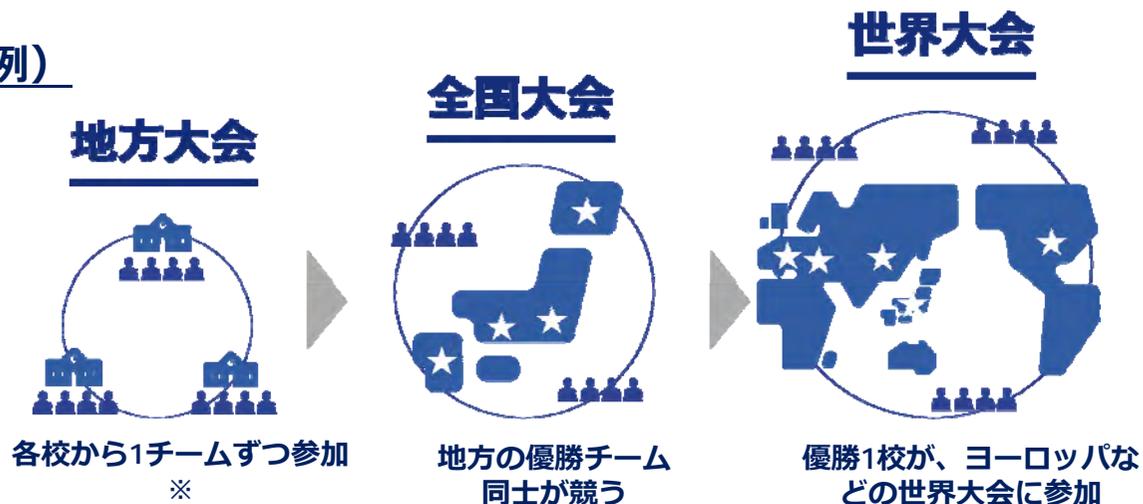
「競技会」である缶サット甲子園・ロケット甲子園は、毎年トーナメントを開催する。

「共同実験」の場である気球甲子園は年間を通じて挑戦の機会がある。

江戸時代の算額絵馬になぞらえた「宇宙算額」である天測甲子園はいつでもチャレンジ可能。

## 大会の流れ（缶サット甲子園の例）

地方大会＞全国大会＞世界大会  
の順に実施される。  
地方大会の優勝チームには、  
全国大会の旅費等が支援される。



※ロケット甲子園は1校から何チームでも参加OK、地方予選会も同一地域で複数回開催可能。

### <缶サット甲子園の実績>

これまでの参加チーム数のべ

**323** チーム

※2021年度時点

地方大会実施実績

**49** 大会

※2021年度時点

### 過去の大会開催都市（カッコ内は運営団体）

和歌山県和歌山市（和歌山大学・缶サット甲子園和歌山地方大会実行委員会）／岐阜県岐阜市（岐阜大学）／千葉県習志野市（千葉工業大学）／愛媛県新居浜市／福岡県北九州市（九州工業大学）／千葉県船橋市（日本大学理工学部）／秋田県秋田市（秋田大学）／千葉県野田市／東京都港区／佐賀県唐津市／北海道赤平市／茨城県つくば市 ほか

### 「世界大会」への参加

缶サット甲子園

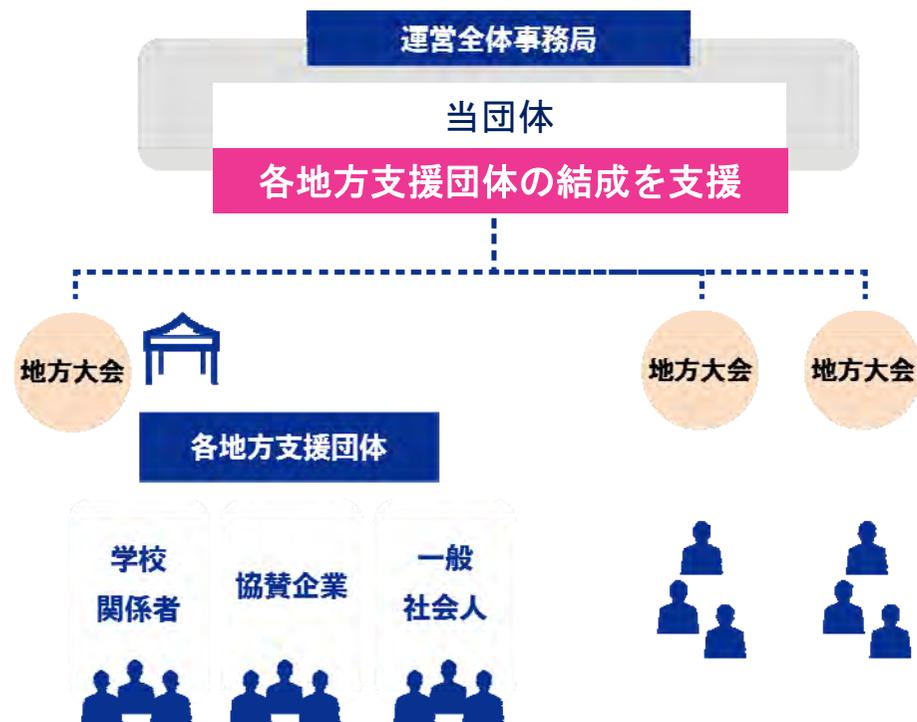
**12回** アメリカ大会（2008年～2017年）  
ヨーロッパ大会（2018・2019年）



▲前年度の全国優勝校が世界大会に参加

缶サット甲子園 地方大会の場合

運営体制



- ・ 実施会場の確保
  - ・ 各学校への広報
  - ・ 当日の大会運営
  - ・ 大会審査員として参加
- 等

必要経費

地方 1 大会あたりにかかる費用 (目安)

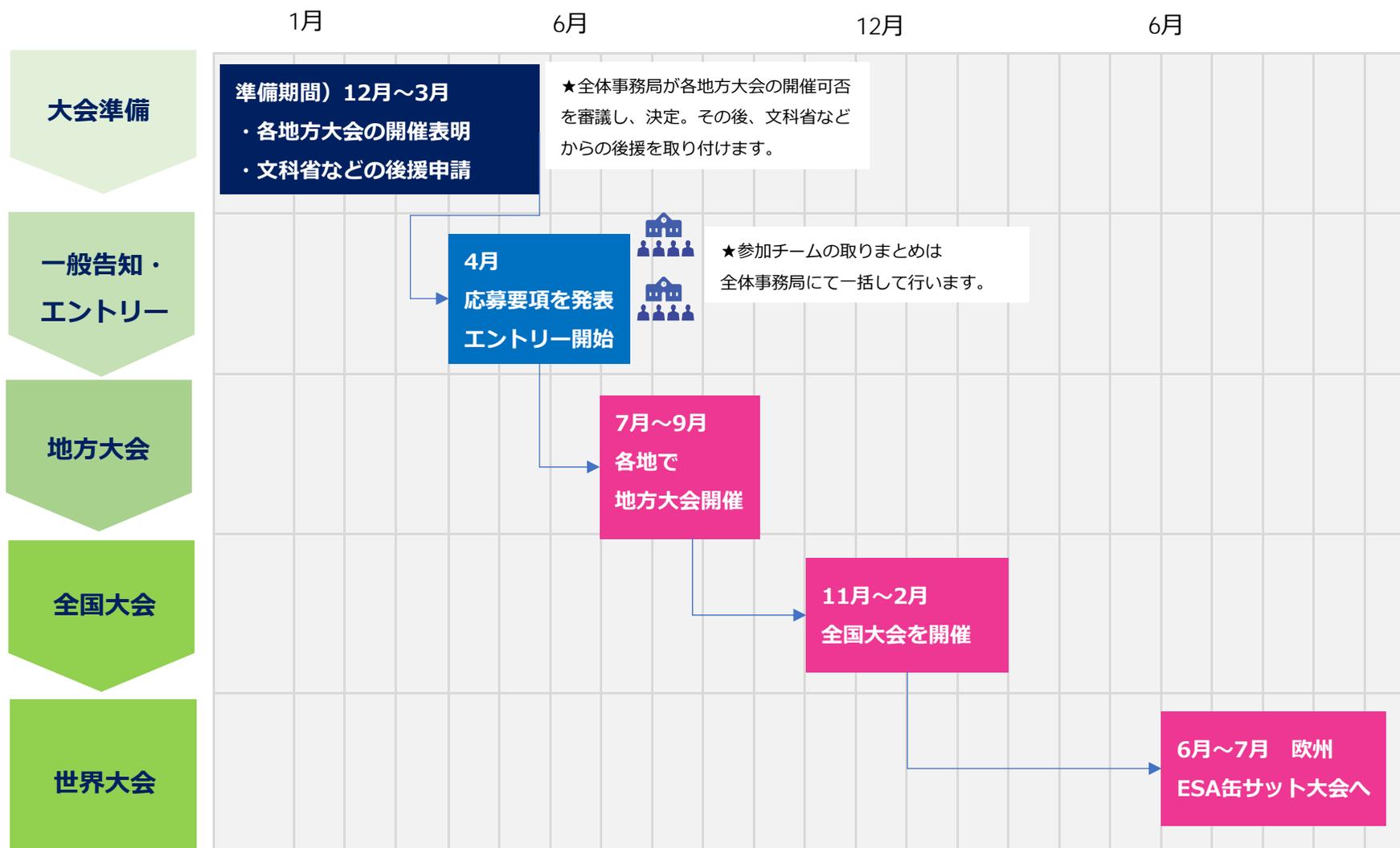
約 1 5 0 万

例) 缶サット地方大会・10校参加

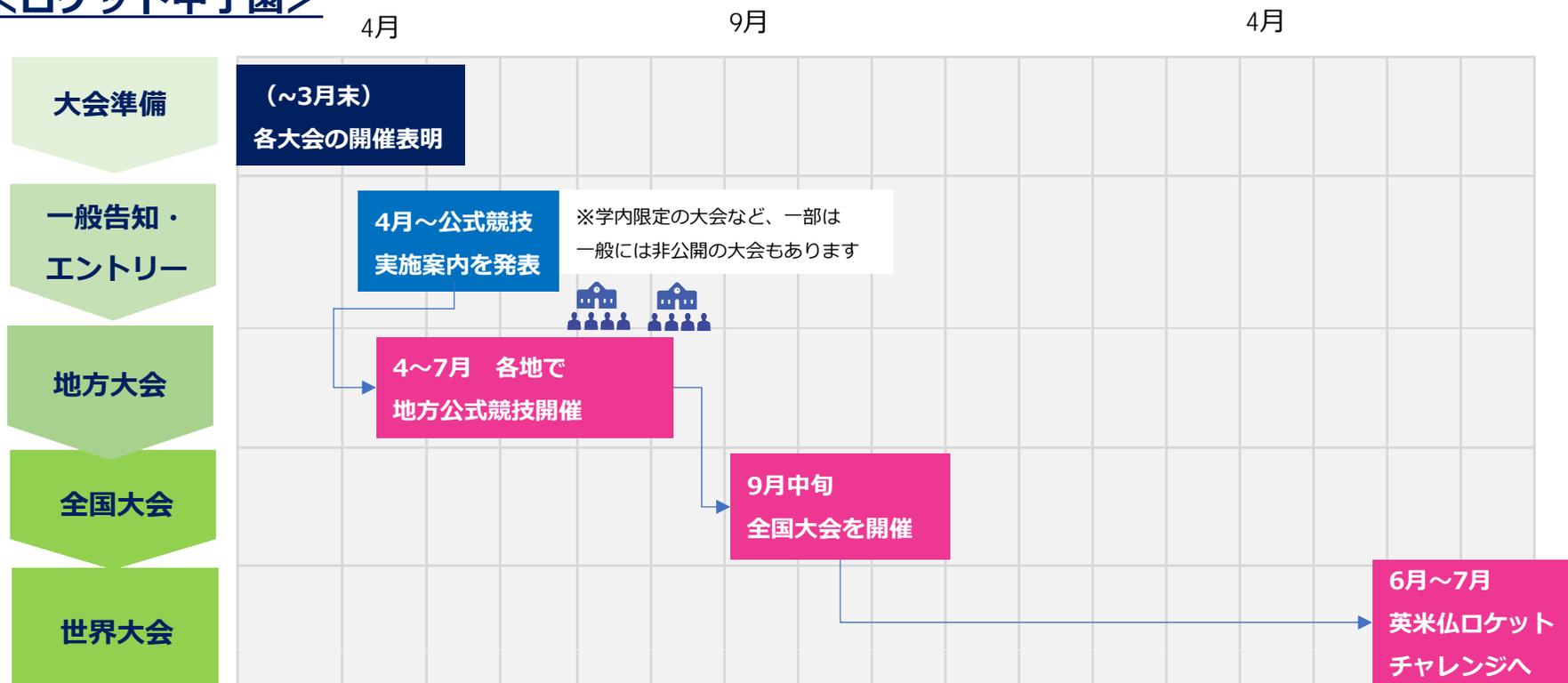
- ・ ロケット&エンジン 2万/校  
(2万×10校=20万)
- ・ 場所代・人件費 20-30万円
- ・ ネット中継 10万円
- ・ ウェブサイト/広報 20万円
- ・ その他事務経費 20万円
- ・ 全国大会旅費支援 50万円

★地方から海外大会へ進出した場合  
(別途) 海外大会支援 50-100万円

### <缶サット甲子園>



### <ロケット甲子園>



### <気球甲子園>



### <天測甲子園>

「算額」形式（各自が問いに挑戦するスタイル）  
のため、実施のスケジュールは個々の自由。



## 参加者の声

# 缶サット甲子園参加者の声

## 参加者の声

**鈴木晴樹さん**（缶サット甲子園2013・缶サット甲子園2014参加者）

株式会社大気社 塗装システム事業部所属／法政大学大学院卒

### 缶サット大会で得た経験が、社会人生活でも活かしていることを実感。

私はこの大会で「チームでの開発」「トップダウン型ものづくり」を経験しました。大会では、ミッション設定・ハードウェア製作・ソフトウェア製作・プレゼンと多岐に渡っており、役割分担し進めていく必要がありました。価値観の違う人と同じ目標に向かって着実に進めていく体験は、かけがえのないものになっています。

また、他の大会とは異なり、「ミッション設定」「実装力」「ミッションと実機の整合性」を重要視していました。ただミッションを設定するだけでなく、運用されるストーリーやストーリーにあった機能を考え実装する、この一気通貫した経験は大学生活でもなかなか出会えませんでした。

この経験をした高校の同期とは、今でも切磋琢磨できる戦友となっていますし、この経験が社会人生活でも活かしており、大会の主催者には感謝しております。

## 参加者の声

**植松千春さん**（缶サット甲子園2010参加者）

インターステラテクノロジズ株式会社 社長室

### 自分たちの缶サットが地上に激突。その経験が、私を成長させた。

大会に参加した時の経験や記憶は今でも鮮明に覚えています。特に「自分たちの製作した缶サットキャリアが展開できず、地上に激突する」光景は一生忘れることのない記憶であり、当時の悔しさは今でも心のバネとなり、私を底支えしてくれています。

当時のレギュレーションは、①ロケットから缶サット放出～②放出後キャリアを展開して缶サット動作開始～③缶サットが着地、という流れでしたが、私たちの缶サットは機能拡充にリソースを割くあまり、キャリアを展開する機構の完成度を上げる事をしませんでした。その結果、当時の参加チームの中では一番機能豊富な缶サットが完成しましたが、打上げ後のキャリア展開ができなかったため、缶サットはミッションを行うことなく地上に落下しました。「細部の完成度を上げるのではなく、バランスを見ながら全体の完成度を上げる」という製品開発マネジメントでは欠かせない事を、缶サット甲子園を通じて実践的に経験させてもらいました。

# ロケット甲子園参加者の声

## 参加者の声

【普連土学園高等学校 理科部 ロケット班】在学生の皆さま①  
向井琴羽さん（ロケット甲子園2019,2021参加）

**初参加での失敗を乗り越え、2回目の大会でロケット打ち上げに成功**

私はこれまでロケット甲子園に2回参加しました。初めての大会では思うように滞空時間の記録が出ず、打ち上げ終了後はチームのメンバーと落ち込んでいました。それまで結果に頓着しない性格だった私が、悔しいと感じていることに自分でも驚いたことを覚えています。

2回目の大会では始めの打ち上げが不点火となり絶望的な中、2度目の打ち上げを迎えました。2度目でロケットが空に真っ直ぐ飛んでいった時は本当に感動しました。そこで改めて自分がモデルロケットを好きなのだと感じました。ロケット甲子園を通じて本気で何かに取り組むことは得難い経験になると分かりました。モデルロケットと、この大会に出会えて本当に良かったと思います。

### 参加者の声

【普連土学園高等学校 理科部 ロケット班】在学生の皆さま②  
江川結菜さん（ロケット甲子園2019,2021参加）

### 仲間たちと乗り越えた失敗や苦勞、当日の緊張感さえも大会の魅力。

私にとってロケット甲子園への参加と優勝は、学校生活に彩りを与えてくれました。学年関係なく信頼できる頼もしい仲間たちと共に何か一つのことにと没頭し、好成績を得て喜ぶという理想の学校生活を送ることが出来ました。

製作過程での失敗や困難が、さらに達成感を味わわせてくれたと思います。そしてロケットはいくら良いものを造っても当日上手く打ち上がるか分からないこと、その緊張感はこの甲子園の魅力の一つでもあると、二度の大会を経て強く感じました。

また、なかなか都会ではできない活動ということもあり、普段旅行など全く行かない私にとっては、大会で遠出することも楽しみの一つです。

### 参加者の声

【普連土学園高等学校 理科部 ロケット班】在学生の皆さま③  
中川香乃さん（ロケット甲子園2019,2021参加）

### 夢をかなえる楽しさを味わえた、ロケット甲子園は私の「青春」。

ロケット甲子園出場と聞くと、初めは多くの方が難しそう、大変そうだ、といった感想を抱くと思います。しかし、私はモデルロケット作成に携わっていく中でその楽しさに気付くことが出来ました。

ロケット甲子園で優勝するという大きな夢をチームが一丸となって成し得たことへの達成感や、1年間かけて作成したロケットが大空へと打ち上がるその瞬間に充実感を感じました。

ロケット甲子園への出場は、私の人生においてかけがえのない経験になりました。ロケットは私にとっての青春です！また、改めて仲間の大切さに気付くとともに、チームワークを高めることができました。一緒にロケット作成をしてきたチームThe Owl of Minervaのメンバーに感謝したいです！

## 参加者の声

【普連土学園高等学校 理科部 ロケット班】OGの皆さま①

**小松崎利奈さん**（ロケット甲子園2017,2018優勝, 世界大会IRC2019第3位）

早稲田大学基幹理工学部

## ロケットの研究が、航空力学や情報システムを学ぶ進路につながった。

ロケット甲子園では、規定の高度、滞空時間に沿ってモデルロケットを打ち上げます。製作の担当をしたパラシュートについて、その大きさを決めるためには力学や数学が必要だと実感しました。また、試行実験とシミュレーションとの誤差の原因究明が上手く出来なかったことから、データを活かすために情報システムの理解も必要だと思いました。

高校の知識だけではロケットを理解するのに不十分でした。このときから、大学で航空力学や情報システムについて学びたいと思うようになりました。現在、大学での学びの姿勢はロケット製作の経験が活きていると強く思います。

貴重な経験をすることができたことに感謝しております。

## 参加者の声

【普連土学園高等学校 理科部 ロケット班】OGの皆さま②

**沢田桃子さん**（ロケット甲子園2017,2018優勝, 世界大会IRC2019第3位）

日本赤十字看護大学看護学部

### 仲間と協力して挑んだ、世界大会でのプレゼンテーション。

世界大会は貴重で刺激のある経験ばかりでしたが、世界大会特有だと感じるのはプレゼンテーションです。全国大会までは規定に沿ったロケットを作成するだけでした。しかし世界大会では、ロケットの強みを英語で説明する必要がありました。英語でのプレゼンテーションは初めてでしたので、審査員が誤解しないよう自作の図を用いた模造紙や資料を使いました。直前まで不安と緊張ばかりでしたが、本番はメンバー同士補助し合いながら無事成功しました。直後は安堵から思わず笑みが溢れてしまいました。

世界大会を通し、仲間との協力がいかに心強いかを強く実感しました。そして、準備から本番までご協力いただいた全ての方に心から感謝しております。

## 参加者の声

【普連土学園高等学校 理科部 ロケット班】OGの皆さま  
**細井江実理さん**（ロケット甲子園2017,2018優勝, 世界大会IRC2019第3位）  
慶應義塾大学文学部

**長い時間をかけて綿密に準備し、フランスの青空に飛ばしたロケット。**

設計では、部品の形や長さを1つ1つ吟味し、最も合理的なロケットになるよう尽力しました。小型ロケットや前年のロケット甲子園での経験が役に立ちました。

また私は、エンジン周辺部品の担当として、エンジンを詰めて発射させるという大役につきました。会場の雰囲気圧倒されたり、エンジンの入れ方が日本と異なっていたりと焦ったものの、無事に役目を果たすことができました。フランスの青空に向かって勢いよく飛んでいくロケットは、今でも心に残っています。設計にプレゼン準備、製作など、充実した10か月間でしたが、振り返ってみるとあっという間でした。このような経験ができたことを誇りに思います。

## 参加者の声

【普連土学園高等学校 理科部 ロケット班】OGの皆さま③  
**林音桜さん**（ロケット甲子園2017,2018優勝, 世界大会IRC2019第3位）  
多摩美術大学

**生卵を守る仕組みに捧げた青春、平坦ではなかった世界への道のり。**

私たちは2018年に開催されたロケット甲子園で優勝し、世界大会に出場する権利を得ました。二つの大会を通して私は生卵を搭載するペイロード部分を担当し、卵が割れないような緩衝材の仕組み作りに青春を捧げました。ロケットを試しに打ち上げる場所がないということもあり確実に割れない仕組みを作ることに苦戦しましたが、今となっては大切な思い出の一つです。

世界大会では他言語が飛び交うなかでとても緊張していましたが、その緊張感で団結力が強くなった気がしました。世界大会までの道のりは一言で険しいと表せるほど平坦ではありませんでした。しかし、そこには楽しさや成長がありました。これからもモデルロケットに携わる中高生が増えていくことを願っています。

## 参加者の声

【埼玉県立大宮工業高等学校 ラジオ部】OBの皆さま

**小田 倭輝さん**（ロケット甲子園2016/2017優勝, 世界大会IRC2017準優勝）

埼玉県立大宮工業高等学校2018年3月卒業／現在、鉄道物流会社に勤務

## 国内で優勝して拓けた世界への道。図らずもモデルロケットが私の青春に。

私がモデルロケットに出会ったのは高校1年生の時、所属していた部活動の場でした。物作りが好きで参加したモデルロケット競技ですが、ある事がきっかけで「私の青春＝モデルロケット」になってしまいました。それはIRC2017への出場です。

国内大会ではロケット打ち上げの実施結果のみで順位を競いますが、国際大会ではその結果に加え、機体についてのプレゼンテーションを英語で審査員に対して行わなければなりません。チームメンバー3人全員が初めての経験で、全てが手探り状態でした。

機体製作と同時に、プレゼンテーション資料作り、英会話の練習をしました。そんな中、私が一番大切だと思ったことは、チームワークです。時に意見が割れることがあっても、チーム全員で同じ目標を持つことで良い結果になる、と思ったからです。そして我々のチームは世界2位の結果を得ることができました。不意に私の青春になってしまったモデルロケット競技ですが、それに関わることができて本当に良かったです。

## 参加者の声

【埼玉県立大宮工業高等学校 ラジオ部】OBの皆さま  
**中山勇也斗さん**（世界大会IRC2018第3位、ロケット甲子園2018参加）  
埼玉県立大宮工業高等学校2020年3月卒業／株式会社 I H I

**イギリスの大会での打ち上げ、英語のプレゼンテーションが良い経験に。**

私は2018年：イギリス・ファンボロー空港で行われたエアショーにて開催された、IRC国際大会に出場しました。大会は2日間に分かれて行われ、1日目は私たちが作成したモデルロケットの特長などを紹介するプレゼンテーションがあり、米・英・仏の審査員に英語にて発表を行いました。2日目にはモデルロケットの打ち上げがあり、ロケットの打ち上げ準備の段階から顧問の先生からのアドバイスが禁止という状況で打ち上げが行われました。

結果発表では私たちの総合順位は4ヶ国中3位という結果でした。ですがプレゼンテーションの結果は英語が母国語のイギリスチームを越し、4ヶ国中2位という結果を得られました。また、ここで得られた仲間と協力して苦難を乗り越えるという経験が、今の仕事に生かされていると感じています。

# 大会実施者の声

## 実施者の声

## ＜缶サット甲子園 地方大会（和歌山）＞

藤木 郁久さん 和歌山県立桐蔭高等学校 科学部顧問

**関係者・地元企業など多くの人のご協力に支えられ、毎年大会を実施。**

モデルロケットを打ち上げることのできる広大な土地、モデルロケットを打ち上げるために必要な資格である「モデルロケット従事者資格（ライセンス）」、缶サット甲子園を理解していただいている審査員、大会を応援していただける協賛企業さん等の条件を整えることができ、毎年、地方大会の運営を行っています。高校生が真剣に打ち込める大会の運営にかかわれることを幸せに感じています。

また、協賛活動を通して、地元の企業の方とも仲良くさせていただき、多くの知り合いもできました。出場する顧問の先生や、関係者等多くの方の協力で実施できている大会で、多くの人とのつながりを楽しみながら大会を実施できています。この缶サット甲子園の活動を通じて、私自身も常に成長させてもらっています。

高校生が最高のパフォーマンスを本番で発揮できるように、これからもサポートに徹していきたいです。引き続き、ご協力をお願いします。

## 実施者の声

## &lt;缶サット甲子園 地方大会（岐阜）&gt;

宮坂武志さん 岐阜大学工学部

**大会をきっかけに、学校の垣根を超えた新たな取り組みがスタート。**

高校生に宇宙工学の面白さ、魅力を伝えることを目的に実施している「宇宙工学講座」の実践プログラムとして、2013年度から缶サット甲子園岐阜大会を実施しています。岐阜大学グラウンドで事前プレゼン、ロケットによる打ち上げ試験を行い、事後プレゼン含めた審査を実施しています。岐阜県を中心に愛知県、長野県など多くの地域から参加しています。

大会運営だけでなく、高校生・高専生にモデルロケット講座、スキルアップ講習を実施することで、競技力、プレゼンテーション能力が年々向上しており、最近では全国大会で入賞することが多くなりました。また、参加チーム間で技術相談を行うなど、学校間の交流が見受けられます。このように缶サットプログラムを通じて岐阜県における衛星プログラムに関する環境整備が進んだことから、岐阜県高校生によるCubsatミッションも開始される予定です。

## 実施者の声

## 〈缶サット甲子園 全国大会〉

上山 勉さん 法政大学第二中・高等学校 教諭

**大会に出た経験が、生徒たちの人生に大きな影響を与えていることを実感。**

この大会はマニュアルがないところがポイントで、自分たちで課題を見つけ出し、あまり技術力はなくてもアイデアを絞り出し（本校はコレ！？）、そしていかに堅実に運用し達成するかを仲間と協働しながら、夢中になって楽しんでやれている点が大きな魅力です。大会に参加し、リーダー層を中心とした生徒から部員全員が参加する部会へ議論を展開していく組織的クラブ運営を確立させ、生徒主体で議論できるようになりました。

このプロジェクトを遂行する中で「他者との違いに気付き、自分を知りそして他者を理解する」といったプロセスを経ながら、集団の中で様々な問題を考え、解決方法を経験として積み重ねていくことが、その後に人生にも大きく影響を与えています。また卒業生との話の中で、缶サット甲子園でスポンサーの存在を意識したことは、後々にとても役立っているそうです。大会に参加できたことは、部員の力量によるものでなく、スポンサー企業、運営して下さっている皆さん、そして保護者も含め支援者の存在があつての機会であつたと。この経験は大勢の中の一人として何かをなそうとする時に、大いに助けになっているそうです。

# 「理数が楽しくなる教育」実行委員会

## 設立趣意書

2008年7月16日制定

狭い国土に多くの方が暮らす日本が世界の中で生きていくためには、すばらしいアイデアや工業製品を生み出す科学技術創造立国であることが重要である。しかしながら、1992年度には66.7万人いた工学部系志願者が2005年には37.5万人に減少するなど理科離れが顕著となっている。またOECDが2006年に実施したPISA（学習到達度調査）によると、学力低下もさることながら理科が楽しいと感じる子が少なく、科学に対する興味や関心が最低であることが判明している。このように我が国の理工系を取り巻く状況は大変厳しく、国の将来を左右する大きな問題であり、今後も科学技術創造立国を推進する為には、理数教育の大変換が求められている。

このような中、小学生・中学生を対象にもものづくりや科学体験を基盤とした新しい理数教育の試みは比較的多く実施されており、例えばJAXA宇宙教育センターや日本宇宙少年団(YAC)では、実践的で子どもが楽しみながら理数を学ぶための様々な教材が作られている。しかし理工系への進学のととなる高校生や専門的に理数系を学ぶ基礎を築くべき大学1～2年生においては、座学を中心とした「知識を習得する」事に主眼を置いた教育が主流であり、今後、この年齢層の生徒・学生に興味を持てる新しい理数教育を推進することが強く求められている。

そこで高校生や大学初等教育に於いて、生徒・学生が楽しく理数を学び、科学技術創造立国日本を支える人材となるための教育を推進することを目指し、「理数が楽しくなる教育」実行委員会を設立する。生徒・学生が主体的に学び、自発的に考え、行動することが出来るように「子どもの心に火を付ける」教育を実施する。

# 「理数が楽しくなる教育」実行委員会会則

2008年7月16日制定

2017年4月23日改訂

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この会は、「理数が楽しくなる教育」実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、高校生・大学生が理数系に興味を持ち、科学技術創造立国日本を支える人材となるために必要な準備と運営に関する事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 高校生・大学生を対象とした理数教育のプログラムを開発・実施すること。
- (2) 関係機関との連絡調整に関すること。
- (3) 普及啓発及び広報に関すること。
- (4) 資金調達及び運用に関すること。
- (5) その他「理数が楽しくなる教育」実施に必要なこと。

## 第2章 組織

(実行委員会構成)

第4条 実行委員会は、理事長、理事、及び事務局員を持って構成する。

(理事会構成)

第5条 実行委員会に理事会を置き、実行委員会の活動を決定する。

2. 理事会は協賛団体からの選出理事、および理事長が委託した理事をもって構成する。

(役員)

第6条 実行委員会に次の役員を置く。

- (1) 理事長1名（理事長は実行委員会会長を兼務する）

- (2) 理事若干名
- (3) 事務局長 1 名
- (4) 監事 1 名

(役員を選任)

第 7 条 初代の理事長は、秋田大学工学資源学部附属ものづくり創造工学センター長をもって充てる。

- 2 2代目以降の理事長は、理事会で選出する。
- 3 事務局長、監事及び顧問は、理事長が委嘱する。
- 4 各地方大会の運営よりそれぞれ 1 名の理事を選出する。
- 5 参画する高校指導教員の選出により、1名の理事を選出することができる。

(役員職務)

第 8 条 理事長は、実行委員会を代表し、会務を掌理し、会議の議長となる。

- 2 事務局長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときはその職務を代行する。

(任期)

第 9 条 役員任期交代のタイミングは 1 月末日とする。

- 2 理事長および事務局長の任期は、2 年とする。
- 3 理事の任期は 1 年とする。

### 第 3 章 会議

(理事会)

第 10 条 理事会は、理事長及び理事をもって構成する。

- 2 理事会は、理事長が必要のつど招集し、次の各号に掲げる事項を審議し決定する。
  - (1) 会則の制定及び改廃に関する事。
  - (2) 運営の基本方針に関する事。
  - (3) 事業計画及び予算に関する事。
  - (4) 決算に関する事。
  - (5) その他全各号に準ずる重要な事項に関する事。
- 3 会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは理事長の決するところによる。

### 第 4 章 財務

(経費)

第11条 実行委員会の経費は、補助金、寄付金、協賛金及びその他の収入をもって充てる。

(委託)

第12条 実行委員会が実施する各種事業の実務は、理事長の監督の下、外部に委託できる。

(残余財産の帰属)

第13条 実行委員会が解散した場合において、その残余財産が生じたときは、実行委員会でその処分を決定する。

## 第5章 事務局

(事務局)

第14条 実行委員会の事務を処理するため、事務局長を長とした事務局をおく。

2 事務局に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

## 第6章 補則

(委任)

第15条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は委員長が事務局と協議の上、別に定める。

## 附則

1 この会則は、平成20年7月16日から施行し、運営に関する一切の事業を完了したときをもってその効力を失う。

「理数が楽しくなる教育」実行委員会  
「宇宙甲子園（缶サット甲子園）」協賛金募集方法

事務局長 秋山 演亮

1. 後援費の使用目的

「理数が楽しくなる教育」実行委員会が主催する「宇宙甲子園（缶サット甲子園）」では高校生を対象とした宇宙教育を実施しています。「宇宙甲子園（缶サット甲子園）」の運営費用は全て、皆様からの協賛金で賄っています。いただいた協賛金は、地方大会の開催費補助、全国大会の開催費、国際大会への参加費、また運営および参加チームの旅費として使用しています。

2. 協賛金の募集方法

協賛金は、郵送または訪問などにより、事業目的やこれまでの実績などを説明して、協力企業を募集しています。旅行チケット等物納も受け付けています。使用目的指定の協賛金も受け付けています。

3. 後援企業

現状ではローソン(株)様、(合) Fly to the Future 様、イジン合同会社様からの協賛金を戴いております。

協賛企業に対しては、宇宙甲子園（缶サット甲子園）実施時に企業ロゴ入りの看板等を会場に掲示する、ロゴ入りの帽子等を参加者に配布するなどにより、広告を行っています。また web サイト等でロゴを公開しています。

以上

理数が楽しくなる教育実行委員会 理事会 / 事務局 一覧

(令和元年 5 月 現在)

役職	所属	氏名	備考
理事長/実行委員会会長	宇宙飛行士	山崎 直子	事務局所属
理事 / 事務局長	和歌山大学 教授 / 千葉工業大学 主席研究員	秋山 演亮	事務局所属
監事	元 サントリー	長田 奉公	事務局所属
理事	岐阜大学 工学部機械工学科 知能機械コース 教授	佐々木 実	岐阜地方大会選出
理事	和歌山桐蔭高校 教員	藤木 郁久	近畿地方大会選出
理事	香川高等専門学校 准教授	村上 幸一	四国地方大会選出
理事	九州工業大学 宇宙環境技術 ラボラトリー 准教授	豊田 和弘	九州地方大会選出